

演奏者プロフィール

田中 雅弘 - たなか まさひろ -

山口県防府市出身。東京芸術大学卒業。

2020年3月まで東京都交響楽団首席を務める。これまでに故堀江泰、ハービー・シャピロ、ダニール・シャフラン、岩崎洸の各氏に師事。受賞歴は、第9回ガスパール・カサド国際チェロコンクール第3位、山口県芸術文化振興奨励賞、アクロス弦楽合奏団として、22回福岡県文化賞（奨励部門）、2020年度山口県文化功労賞など多数。

2021年4月より防府市音楽のまち創造プロデューサーに就任。防府音楽祭音楽監督としても活躍している。



喜多村 裕美 - きたむら ひろみ -



国立音楽大学卒業。

1997年ブルガリアで行われた第5回 MUSIC AND EARTH 国際器楽・作曲コンクール、室内楽部門第一位。

1998年第6回同コンクール、ピアノデュオ部門第一位、及びブルガリア作曲家同盟賞受賞。

1999年第1回スーパークラシックオーディションアンサンブル部門第二位、第5回宮日音楽コンクールピアノ部門最優秀賞。

2000年第5回国際ピアノデュオコンクール第一位。

桑原美穂、児玉幸子各氏に師事。

現在、ソロ、及び室内楽ピアニストとして防府音楽祭出演など県内外で活躍中。

防府市立
防府図書館
HOFU CITY LIBRARY

三哲
文庫

〒747-0035
防府市栄町一丁目5番1号
笑顔満開通り ルルサス防府3階
TEL (0835) 22-0780
FAX (0835) 22-9916



▲防府図書館Instagram

このコンサートは、「ナナシマチの図書館をめぐるスタンプラリー」の一環で開催しました。



図書館コンサート

チェロで聴く 物語が奏でる音楽



2024.11.4 (月・振休)

14:00~15:00

会場 防府図書館

ブラウジングコーナー

— program —

1. 「113のエチュード」より J.J.F. ドッツァウアー
2. 愛の挨拶 E. エルガー
3. 白鳥 サン＝サーンス
4. ヘンデル《ユダ・マカベウス》の「見よ勇者は帰る」の
主題による12の変奏曲 L.V. ベートーヴェン
5. リベルタンゴ A. ピアソラ
6. 鳥の歌 パブロ・カザルス（編曲）
7. オリエンタル E. グラナドス
8. 「無伴奏チェロ組曲 第1番」より J.S. バッハ



演奏：田中雅弘 喜多村裕美 / 進行：伊藤朋子（府図図書館司書）

本日紹介する図書



ラブカは静かに弓を持つ 安壇 美緒／著 集英社 2022 年刊

主人公の橋樹は幼少期にチェロを習っていたが、ある事件に巻き込まれて心に傷を負い、以来チェロから離れていた。成人した橋は、ある日、勤務先である著作権管理団体の上司から音楽教室への潜入捜査を命じられる。身分を偽り生徒としてチェロ講師 浅葉のもとに通い始めるが、次第に心境に変化がー。そして法廷に立つ時間が近づく。果たして橋の選択は…。

◎主な受賞歴 第20回本屋大賞第2位、第69回(2023年度)青少年読書感想文全国コンクール高等学校の部 課題図書 ほか

keyword -1- 憧れの名曲

チェロ奏者の憧れの名曲はたくさんありますが、当演奏会では『愛の挨拶』と『白鳥』を演奏していただきました。『愛の挨拶』は、優美でロマンティックな旋律が印象的ですが、作曲の背景にはこんなエピソードがあります。作曲者のエドワード・エルガーは、29歳の時にアリスという38歳の女性と恋に落ちます。当時のエルガーは駆け出しの作曲家で収入も不安定。一方のアリスは上流階級出身で作家としても活躍していました。2人の格差や年齢差に、アリスの家族は結婚に反対しますが、周囲の反対を押し切って2人は結ばれます。婚約に際し、アリスはエルガーに自作の詩を贈り、エルガーはアリスに『愛の挨拶』を贈りました。

keyword -2- 著作権

●この小説のモデルになった「音楽著作権をめぐる実際にあった係争」とは？
2017年、日本著作権協会（以下「JASRAC」）が、音楽教室のレッスンでの演奏に対して使用楽曲の著作権料を徴収する方針を示したため、反発した音楽教室運営事業者が、JASRACを相手取り訴訟を起こしました。一審では、音楽教室での教師と生徒による演奏には演奏権が及ぶことを認め、JASRACの使用料請求権を全面的に認めましたが、二審の判決では一審判決を一部修正し、生徒による演奏については請求権を認めないとししました。最終的に、2022年に最高裁の「教師による演奏は著作権使用料徴収の対象になるが、生徒による演奏は対象外とする」という判決で終結しました。

keyword -3- パブロ・カザルス

●パブロ・カザルス（Pablo Casals, 1876年 - 1973年）とは？
スペイン・カタルーニャ地方生まれのチェロ奏者、指揮者、作曲家です。カザルスは12歳からチェロ、作曲などを学びますが、教授されたチェロ奏法に違和感を抱き、その後長い年月をかけて独自の奏法を追究し、チェロの近代奏法を確立しました。13歳のときに、バルセロナの楽器店で、偶然『無伴奏チェロ組曲』の楽譜を見つけ、それまでは単なる練習曲とみなされ演奏会で演奏されることがほとんどなかった『無伴奏チェロ組曲』の真価を見抜き、その魅力を世間に広く知らしめました。こういった功績から、「20世紀最大のチェリスト」、「チェロの神様」と呼ばれています。また、二度の大戦とスペイン内戦を経験した彼は、平和主義者としても知られています。カザルスが音楽を通じて平和を訴える姿は人々の心を打ち、1971年に国連平和賞を受賞しました。ニューヨークの国連本部に登壇したカザルスは、「私の故郷カタルーニャでは、鳥たちはピース、ピース、ピース!と鳴きながら飛んでいるのです」というスピーチとともに『鳥の歌』を演奏しました。『鳥の歌』は元々カタルーニャに古くから伝わる民謡で、カザルスは自身の演奏会でよく演奏していました。カザルスの演奏とスピーチには、故郷カタルーニャへの想い、平和への願いがこめられています。